

事業計画

中期計画



北陸ろうきんでは、2020年度から2022年度までの3カ年を「第7期中期計画」と位置付け、お客さまに安心いただける金融サービスの持続的なご提供をめざし、主要政策課題に積極的に取り組んでいます。

第7期中期計画

すべての働く人のために、「持続可能を実現する」事業運営に取り組みます！

～ろうきん 未来への「改革」～

I. ろうきん理念の実現

- ろうきん運動の強化と発展
 - 会員・推進機構・ろうきんが一体となり、ろうきん運動を進めることで連携をより強固なものとし会員・組合員の利用度向上に努めます。
 - ろうきんの理念、ろうきん運動の世代間の継承の強化を図ります。
 - ろうきん運動を実践する中で、SDGsの実現に向けた取り組みを展開します。
 - 労働者福祉事業団体や消費生活協同組合と連携し、労働者自主福祉運動の充実に向けた活動に取り組みます。
- 取引基盤の拡大
 - 会員、退職者会や勤労者互助会等と連携し、シニア層や地域勤労者の取引拡大に努めます。
 - 新規会員の拡大に努めます。
- 利用配当を中心とした会員還元の実現
 - 配当性向のあり方について検討します。

II. 持続可能な経営基盤の構築

- 勤労者の生活応援・可処分所得向上に向けた取り組み
 - 「生活応援運動」を柱とした、勤労者の生活設計支援・可処分所得向上に取り組みます。
 - お客様との生涯取引を目指し、ライフステージに応じた生活設計・資産形成・ローン商品等の推進に取り組みます。
- 良質な商品・サービスの開発および取引チャネルの拡充
 - 多様化するお客様ニーズに応えるため、ろうきんらしさを追求した商品・サービスの開発に取り組みます。
 - FinTech、Webチャネル等インターネットを活用したサービスの拡充を図ります。
- ガバナンスを重視した経営管理
 - 経営管理の充実を図るため、組織体制を見直します。
- 収益確保に係るリスク取得方針（RAS）
 - RA（リスクアベタイト）を行うため、RAS（リスクアベタイト・ステートメント）を策定します。
- 収益改革
 - 第3次店舗整備計画を策定し、経営資源の効率的な再配分を行います。
 - RAF（リスクアベタイト・フレームワーク）に基づき、資金運用収益の確保に努めます。
 - 経費削減の取り組みを継続します。
- 営業改革
 - 営業力強化に向けた、戦略的な営業体制を構築します。
 - 職員の意識改革を図り、営業力を強化します。
 - 事務改革を進めることで「営業力の創出」を図り、提案力を強化します。

III. 信頼される人財育成と管理態勢の強化

- 会員ニーズに応えることが出来る人財の育成
 - 会員から信頼される人財を育成します。
- 職場風土改革の取り組み
 - 活気ある職場づくりを目指して「職場風土改革」を実践します。
 - 公平で働き甲斐のある職場づくりをめざして「働き方改革」を進めます。
 - 職員が健康で安心して働き続けることをめざして「健康経営」を実践します。
- 事務改革
 - RPA等を導入し、業務の効率化を図ります。
 - 会員事務の負担軽減のため、団体IBの推進等の支援強化を図ります。
- 管理態勢の強化
 - リスク管理態勢の高度化を図ります。
 - 資産の健全性確保のため、債権管理態勢を強化します。
 - 災害発生時の対応やサイバーセキュリティ対策等、危機管理態勢を強化します。

2022年度事業計画の主要課題

第7期中期計画（2020年度～2022年度）の最終年度として、2022年度事業計画では、以下の重点施策に取り組みます。

- 福祉金融機関としての役割を発揮するため、ろうきん運動の発展・強化による「誰一人取り残さない」金融包摂の実現に尽くしていきます。
- 会員と協働にて「勤労者による・勤労者のための」労働者自主福祉運動を展開します。
- 会員・勤労者のニーズに応える営業スタイルの確立に向け、様々なチャネルを活用し利便性とサービスの向上に努めます。
- お客様本位の業務運営を実践し、良質な商品・サービスを提供するとともに、利用者に信頼され共感が得られる活動を展開します。
- 前例踏襲にとらわれず、職員一人ひとりが自ら考え行動できる人財育成に取り組みます。
- 経営の健全性を保ち、安定した会員還元のため、全職員をあげて必要収益の確保に努めます。
- コンプライアンス意識の向上を図り、事務事故・苦情等の未然防止・再発防止に取り組みます。

2022年度計数計画

● 預金・貸出金計画

預金	残高増加目標額	90億円
貸出金	残高増加目標額	140億91百万円
	新規実行目標額	620億円 有担保400億円 無担保220億円

※上記計画の結果、預金・貸出金の残高は以下のとおりとなります。

(単位：百万円)

	期首残高	期末残高	期中増加額	期中増加率
預金	810,086	819,086	9,000	1.11%
貸出金	465,069	479,160	14,091	3.02%

● 収支計画

(単位：百万円)

支出の部		収入の部	
経常費用	8,167	経常収益	8,651
特別損失	15	特別利益	—
法人税等	118		
当期純利益	350		
合計	8,651	合計	8,651

2022年度事業計画におけるリスクアペタイト

① リスクアペタイト・フレームワーク (RAF)

「リスクアペタイト・フレームワーク (RAF)」とは、会員の皆さまの信頼に応える健全経営の実現（ろうきん理念の実現）のため、適正なリスクアペタイトによる必要な収益の確保をめざす取り組みです。また、その取り組みを明文化したものを「リスクアペタイト・ステートメント (RAS)」といいます。

② 2022年度事業計画におけるリスクアペタイト・ステートメント (RAS)

当金庫は、会員の皆さまの信頼に応える健全経営の実現（ろうきん理念の実現）のため、適正なリスクアペタイトによる必要な収益の確保を目的とします。

(1) リスクアペタイト方針

事業計画達成のため、リスクアペタイトの種類・量については、金融政策・圏内の市況を踏まえ、より多くの収益機会を追求（リスク・リターン向上）、リスクをコントロールした経営（想定外損失回避）を意識して決定し、その管理を行います。

(2) リスクアペタイト指標

当期純利益、自己資本比率を「重要目標達成指標 (KGI)」とし、目標達成のためのモニタリング指標を「重要業績評価指標 (KPI)」「重要リスク指標 (KRI)」として設定します。

重要目標達成指標 (KGI)

KGI項目	2022年度
当期純利益	3億50百万円
自己資本比率	8%維持

重要業績評価指標 (KPI)

KPI項目	2022年度	
貸出金利息	59億70百万円	
余裕資金運用	16億70百万円	
(内訳)	預け金利息	6億60百万円
	有価証券利息配当金等	10億10百万円

重要リスク指標 (KRI)

KRI項目	リスクアペタイト指標	リスクプロファイル
金利リスク	IRRBB (重要性テスト比率)	25%
信用リスク	市場信用リスク	11億00百万円
	与信信用リスク	32億70百万円
健全性リスク	リスクアセット	4,606億30百万円